

渥美国際交流財団  
2020 年度事業報告

(2020 年 4 月 1 日～2021 年 3 月 31 日)

■ 留学生の奨学事業【公 1】(公益目的事業 1)

➤ 奨学金支給

【1】 渥美奨学金の支給：2020 年度（第 26 期）渥美奨学生 14 名に月額 20 万円を支給

[中途辞退者は下記の通り]

・2020 年度奨学生 1 名－奨学期間は 2020 年 4 月～2020 年 9 月（博士号取得のため）

[前年度からの継続受給者は下記の通り]

・2019 年度奨学生 1 名－奨学期間は 2019 年 9 月～2020 年 8 月

★奨学金のうち 2 名分（480 万円）は藤井・井手奨学資金から、2 名分（480 万円）は荒井奨学資金から拠出

<2020 年度博士号取得者>

2020 年度奨学生

李 受眞（韓国）東京学芸大学（教育方法論）

浜松学院大学こどもコミュニケーション学科助教

シーシキン、ビクター（ロシア）東京大学（システム創成学）

東京大学大学院工学系研究科研究員

呉 勤文（台湾）筑波大学（国際日本研究）

筑波大学人文社会系博士特別研究員

雍 旭（中国）電気通信大学（機械知能システム学）

中国科学院深圳先進技術研究院研究員

元 笑予（中国）東京学芸大学（学校教育学）

玉川大学教育学部非常勤講師、東京学芸大学個人研究員

尹 在彦（韓国）一橋大学（国際関係論）

一橋大学大学院法学研究科特任講師

2019 年度奨学生

陳 璐（中国）東京外国語大学（言語文化）

上智大学短期大学部、早稲田大学商学部、中央大学商学部非常勤講師

金 信慧（韓国）立教大学（コミュニティ福祉学）

頼 思好（台湾）東京大学（東アジア思想文化）

中央研究院中国文学与哲学研究所研究員

セレナ、フランコ（イタリア）慶応義塾大学（国際取引法・民事法学）

武蔵野学院大学国際コミュニケーション学部専任講師

申 惠媛（韓国）東京大学（国際社会・相関社会）

東京大学教養学部附属教養教育高度化機構社会連携部門特任助教

謝 蘇杭（中国）千葉大学（人文公共学）

千葉大学大学院人文科学研究院特別研究員

2018 年度奨学生

コーベル、アメリ（フランス）パリ政治大学（比較政治）

獨協大学外国語学部フランス語学科特任講師

2017 年度奨学生

グアリーニ、レティツィア（イタリア）お茶の水女子大学（比較社会文化）  
国際基督教大学ジェンダー研究センター助教

【2】 博士号取得者の海外学会参加者奨学金  
該当者なし

【3】 元奨学生を対象とした継続支援奨学金  
頼 思好（東京大学大学院、2019年度奨学生）  
支給期間：2020年4月～6月

【追加】新型コロナウイルス特別奨学金  
博士論文を執筆中で常勤職についていない元渥美奨学生を対象とし、5月に一時金10万円を18名に、12月に同額を19名に支給。

➤ 募集選考

【4】 2021年度第27期奨学生14名の募集・選考（競争率：5.1倍）

募集選考の経過

7月1日	博士課程のある関東地方の137大学の担当課、事務局、ホームページ上で募集要項の配布開始	
9月2日	応募受付開始	
9月30日	応募締め切り（24大学20ヶ国／地域より71名応募：競争率は5.1倍）	
9月28日～10月4日	第1次書類選考（応募書類の15項目を数値化）（選考委員：今西淳子）	50名に
10月5日～9日	第2次書類選考会（選考委員：施建明、全振煥、干曉飛、韓京子、シム・チュンキャット）	29名に
11月4日～11月11日	予備面接（面接者：片岡達治、平川均）	20名に
12月5日	最終選考会（書類審査と面接）	14名を選考
12月19日	第33回理事会で14名を決定	

選考委員会の構成

《最終選考》

委員長	田村 次朗	慶應義塾大学教授	法学
委員	佐野 みどり	学習院大学教授	美術史学
委員	細田 衛士	慶應義塾大学名誉教授、中部大学教授	環境経済学
委員	山科 章	東京医科大学名誉教授、桐生大学副学長	医学
委員	金子 成彦	東京大学名誉教授、早稲田大学教授	機械工学
委員	奥田 暁代	慶應義塾大学教授	英文学

《予備選考》

委員	片岡 達治	元癌研究会研究員	薬学
委員	平川 均	名古屋大学名誉教授	経済学
委員	施 建明	東京理科大学教授	数学

委員	于 曉飛	日本大学特任教授	文化人類学
委員	シム チュンギョット	昭和女子大学准教授	教育学
委員	韓 京子	青山学院大学准教授	日本文学
委員	今西 淳子	渥美国際交流財団 常務理事	

## 2021 年度第 27 期奨学生リスト

Chan Ya Hsun	詹 亜訓	女	台湾	東京大学	国際社会科学
Chen Xi	陳 希	女	中国	東京大学	地域文化研究
Chen Yijie	陳 藝婕	女	中国	総合研究大学院大学	国際日本研究
Chiang Hsun Yi	蔣 薫誼	女	台湾	東京大学	アジア文化研究
Cho You Kyung	曹 有敬	女	韓国	東京大学	美学芸術学
Guo Lifu	郭 立夫	男	中国	東京大学	地域文化研究
Hu Shi	胡 石	男	中国	東京農工大学	生物機能システム科学
Kakin Oksana	カキン オクサナ	女	ロシア	お茶の水女子大学	ジェンダー学際研究
Lee Chungsun	李 貞善	女	韓国	東京大学	文化資源学
Li Dian	李 典	女	中国	慶應義塾大学	分子生物学
Li Zhaoxue	李 趙雪	女	中国	東京藝術大学	日本・東洋美術史研究
Mohd Hafiz Hilman Bin Mohammad Sofian	モハマド ハフィズ ヒルマン ビン モハマド ソフィアン	男	マレーシア	芝浦工業大学	機能制御システム
Wang Xing Fang	王 杏芳	女	中国	東京大学	法学政治学(綜合法政)
Yue Qu	樂 曲	男	中国	早稲田大学	人文科学

【5】奨学事業および国際交流事業のさらなる活性化を目指し、日本人学生も奨学金支給対象に含めるために、財団の目的および事業の変更手続きを進め、3月12日付けで内閣府より変更の「認定書」が交付された。

### ➤ 生活支援とフォローアップ

#### 【6】月例会

食事会や蓼科旅行、真夏のBBQ、工事現場見学会、そして餅つきやBINGOの新年会など、1年間の奨学期間に行う盛りだくさんの月例会であるが、新型コロナウイルスの感染防止のために飲食を伴うもの、宿泊事業は全て中止せざるを得なかった。Zoom会議の可能性を試しながら、渥美財団ホールに参加する人とZoomで参加する人が一緒に楽しめる交流会を事務局スタッフと奨学生が共に考え、試行錯誤しながら創り上げた。

#### ① 毎月の交流会

※ハイブリッド=奨学生は会場かオンラインを選んで参加する。

4月	博論進捗状況をEメールで報告
5月 1日	5月例会「はじめまして」(オンライン)
6月 9日	6月例会「いまさら聞けない? コロナへの疑問・質問」(ハイブリッド)
7月 4日	蓼科ワークショップ@東京「リモート教育の可能性と限界」(ハイブリッド)

7月13日	個人面談（17日まで。渥美財団またはオンライン）
9月11日	9月例会「財団の初期の活動やSGRA設立について知ろう！」（ハイブリッド）
10月14日	10月例会「こんなものいいな、できたらいいなー「どこでもペダル」製作を通してー」（ハイブリッド）
11月16日	個人面談（20日まで。渥美財団）
12月19日	12月例会「プチ・クリスマス会」（オンライン）
1月16日	新年会と理事長誕生日のお祝い（主催者は渥美財団、参加者はオンライン）
2月1日	個人面談（5日まで。渥美財団またはオンライン）
3月6日	研究報告会（ハイブリッド）

② 蓼科ワークショップ 旅行は中止し東京で半日のワークショップを開催

#### 【7】フォローアップ（同窓会ラクーン会）

- ☆ 7月、9月、10月の例会では先輩がファシリテーターを務めた
- ☆ オンラインのラクーン会（同窓会）を開催
  - 2020年5月3日 初めてのVラクーン会（約40名）
  - 8月14日 第2回Vラクーン会（約30名）
  - 9月27日 2006Vラクーン会（5名）
  - 10月15日 2003Vラクーン会（5名）
  - 12月30日 年末Vラクーン会（22名）
  - 2021年3月14日 1996Vラクーン会（8名）
- ☆ 「ラクーン文庫」の管理：渥美財団ホールに設置、オンラインDB
- ☆ 渥美奨学生の発表論文リストをオンラインDBで管理

### ■ 留学生を通じた交流事業（SGRAの活動）【公2】（公益目的事業2）

➤ 学術交流プロジェクトの開催

#### 【8】アジア未来会議

① 優秀論文集『アジアの未来へー私の提案 Vol.5』を出版

初版発行：2020年9月5日

発行所：(株) ジャパンタイムズ出版

ISBN：978-4-7890-1772-5

ISSN：2435-1431

Editorial Direction：沢田博（ニューズウィーク日本版元編集長）

発行部数：2000部（優秀論文執筆者、AFC関係者、SGRA会員等に送付）

② 第6回アジア未来会議の準備

新型コロナウイルスの流行により開催を1年延期。感染が抑えられている台湾で会議を開催することはできるが、海外からの参加者が入国できるようになることを願って延期を決定した。

☆ 第6回アジア未来会議の新しいスケジュール

日時：2022年8月26日（金）～8月30日（火）（到着・出発日を含む）

会場：中国文化大学（台北市）

プログラム：基調講演、シンポジウム、分科会（論文の口頭発表）、見学ツアー、  
ウェルカムパーティ、クロージングパーティ、優秀論文賞（AFC#6B）授賞式、他

◇ 延期に伴い前年祭（プレカンファランス）を開催する。

日時：2021年8月26日(木)

会場：中国文化大学（台北市）を拠点にハイブリット式（対面、オンライン併用）で実施

会場におけるプログラム：基調講演、シンポジウム、台湾地区優秀論文の口頭発表

オンラインプログラム：優秀論文賞（AFC#6A）授賞式、優秀論文（AFC#6A）の口頭発表

◇ 2022年の開催までに、論文の発表要旨の審査、奨学金と優秀論文の選考を2回（AFC#6AとAFC#6B）実施し、優秀論文集を2回発行する。

・第1回募集選考（AFC#6A）

発表要旨の投稿236篇。AFC#6A奨学金（50名）、特別補助金（30名）受給者決定。

優秀論文20篇の選考中。応募112篇。査読委員55名。

## 【9】SGRAフォーラム・カフェ・スタディツアー等を主催・共催

2020年度のSGRAの活動は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、大幅な予定変更を余技なくされた。しかしながら、月例会で学んだバーチャル会議の可能性をSGRAのイベントに展開。従来は30名程度の小規模なSGRAカフェもバーチャルになると世界中から100名を超す参加者を得、時には300名を超したこともあった。SGRAイベントへの参加者は2019年の約460名に比べて、2020年度は810名と倍増。しかも世界中からリアルタイムで参加となり、より多くの人々に発信することができるようになった。チャイナ・フォーラムは、講師は京都、日中同時通訳是北京、日韓同時通訳はソウル、聴講者は世界中から参加という空間を超えた事業になり、3月のSGRAカフェは日中韓同時通訳に加えて、聴講者がQ&Aに投稿する質問を3言語に同時翻訳し好評を得た。「国史たちの対話の可能性」フォーラムは従来日中韓同時通訳付きのプロジェクトであるが、今までの国史対話の参加者全員がオンライン上で自由討論に参加し、日中韓の国史研究者ネットワークの推進に大きな成果があった。コロナ終息後もSGRAのイベントは会場とオンラインのハイブリッド型で実施することになるだろう。

### ① 第13回SGRA-Vカフェを主催

テーマ：「ポストコロナ時代の東アジア」

講師：林泉忠（武漢大学日本研究センター）

日時：2020年7月18日（土）15～17時

会場：Zoom会議による

参加者：約100名

報告書：SGRAレポート#91（2020年11月20日発行）

### ② 第14回SGRAカフェを主催

テーマ：「国際的観点から見た日本の新型コロナウイルス対策」

講師：大曲貴夫（国立国際医療研究センター国際感染症センター長）

日時：2020年9月19日（土）15～17時

会場：渥美財団ホール+Zoom会議のハイブリッド形式

参加者：会場30名、オンライン約50名

担当：尹在彦（一橋大学）

- ③ 第14回 SGRA チャイナ-V フォーラムを主催  
 テーマ：「東西思想の接触圏としての日本近代美術史再考」  
 共催：清華東亜文化講座、北京大学日本文化研究所  
 後援：国際交流基金北京日本文化センター  
 講師：稲賀繁美（国際日本文化研究センター教授）  
 日時：2020年11月1日（日）午後4～5時半（東京時間）  
 会場：Zoom Webinar による ※日中同時通訳付き  
 参加者：パネリスト10名、一般聴講者 約300名  
 担当：林少陽（香港城市大学）、孫建軍（北京大学）  
 報告書：SGRA レポート編集中
- ④ 第65回 SGRA-V フォーラム／第5回国史たちの対話を主催  
 テーマ：「19世紀東アジアにおける感染症の流行と社会的対応」  
 講師：韓国：朴漢珉（東北亜歴史財団）「開港期朝鮮におけるコレラ流行と開港場検疫」  
 日本：市川智生（沖縄国際大学）「19世紀後半日本における感染症対策と開港場」  
 中国：余新忠（南開大学）「中国衛生防疫メカニズムの近代的発展と性格」  
 日時：2021年1月9日（土）午後2時～5時10分（日本時間）  
 会場：Zoom Webinar による ※日中韓同時通訳付き  
 参加者：パネリスト38名、一般聴講者93名  
 担当：国史対話実行委員会（李恩民（桜美林大学）、金キョンテ（全南大学）他）  
 報告書：SGRA レポート編集中
- ⑤ 第15回 SGRA-V カフェを主催  
 テーマ：『鬼滅の刃』からみた日本アニメの文化力」  
 講師：津堅信之（アニメーション研究家、日本大学芸術学部映画学科講師）  
 日時：2021年3月20日（土）午後3時～4時30分（日本時間）  
 会場：Zoom Webinar による ※日中韓同時通訳、同時翻訳付き  
 参加者：一般聴講者 約250名  
 担当：陳エン（精華大学）、ソイヤ・デール
- ⑥ 第13回ウランバートル国際シンポジウムを共催  
 テーマ：「チンギス・ハーンの長城——歴史、現状と遺産」  
 日時：2020年12月24日（木）11時～18時  
 会場：昭和女子大学8号館5階ハイブリット教室  
 モンゴル国立大学モンゴル日本センター多目的室  
 ※日本の研究者は昭和女子大学、モンゴルの研究者はモンゴル国立大学に集まり、遠隔システムで2つの会場を繋いで開催された。今回は、日本、モンゴルの研究者のみのシンポジウムに。

プロジェクトの大半はオンラインや会場とオンラインのハイブリッドで開催したが、下記のプロジェクトは中止となった。

中止した主催プロジェクト

- ・日台アジア未来フォーラム「日台の酒造りと文化：日本酒 vs 紹興酒」  
 松江市で開催する予定であったが台湾からの参加ができず、また、オンライン展開が難しいテーマなので無期延期
- ・SGRA フォーラム「日本のODAと東アジア：再評価の試み」  
 コロナウイルス対策の国際協力をテーマとした第14回 SGRA カフェに変更

- ・SGRA ふくしまスタディツアー

宿泊を伴うプロジェクトは実施困難なため

#### 中止した共催プロジェクト

- ・革命比較研究会第1回国際研究集会を共催  
プロジェクトがオンラインで開催されたため共催を中止
- ・東アジア日本研究者協議会第5回国際学術大会を協催し3セッションを主催  
ソウルで開催予定だった学術大会が延期になった
- ・持続可能な共有型成長セミナーをSGRA フィリピンと共催  
フィリピンでは厳しいロックダウンが実施されプロジェクト企画が困難だった。

#### ➤ 研究交流プロジェクトの成果等の発信

#### 【10】SGRA レポートの発行

SGRA レポート第76号「日中200年：文化史からの再検討」（日中2言語合冊）

劉建輝 | 2020年6月18日発行

SGRA レポート第88号「日中映画交流の可能性」

刈間文俊、王衆一 | 2020年9月25日発行

SGRA レポート第90号「日本・中国・韓国における国史たちの対話の可能性：東アジアの誕生」

三谷博、大久保健晴、韓承勳、孫青、大川真、南基玄、郭衛東、  
塩出浩之、韓成敏、秦方

日本語版 2020年11月20日発行

中国語版 2021年2月11日発行

韓国語版 2021年2月11日発行

SGRA レポート第91号「ポストコロナ時代の東アジア」

林泉忠 | 2020年11月20日発行

以下は2021年度に発行予定で現在編集中

SGRA レポート第92号「国際日本学としてのアニメ研究」（日中2言語合冊）

SGRA レポート第93号「東西思想の接触圏としての日本近代美術史再考」（日中2言語合冊）

SGRA レポート第94号「国史たちの対話の可能性：

19世紀東アジアにおける感染症の流行と社会対応」（日中韓3言語）

#### 【11】多言語化プロジェクト（SGRA レポート等を英語、中国語等に翻訳し出版）

日本語で発行したSGRA レポートやかわらばんのエッセイを、英語、中国語、韓国語などに翻訳して発信する。学術ジャーナルへの掲載、単行本の出版、ホームページへ掲載など。

◇ SGRA レポートの中国語版と韓国語版の出版

レポート第76号、第90号、第92号、第93号、第94号は多言語対応

◇ 第5回アジア未来会議円卓会議B（第3回アジア文化対話）講演録「Social Ethics and Global Economy “Can Religion Stop the Tyranny of the Market Economy?”」英語版の編集

◇ SGRA かわらばんで配信したエッセイを適時英訳してホームページに掲載

#### 【12】メールマガジンの配信

- ① SGRA かわらばんの配信（第 813 号～第 863 号）  
SGRA フォーラム等のお知らせと世界各地からの SGRA 会員のエッセイを、毎週木曜日に電子メールで発信 <購読者数：2777 人（前年比 93 人増）>。
- ② 国史メルマガの配信（第 14 号～第 28 号）  
SGRA が主催する「日本・中国・韓国における国史たちの対話」円卓会議の関係者によるエッセイを、毎月 1 回、日本語・中国語・韓国語の 3 言語で一斉に配信  
<購読者数：263 人（前年比 168 人増）、配信ごとに SGRA かわらばんでも紹介>
- ③ SGRA チャイナ・フォーラム E メールレター（第 1 号～3 号）  
2000 年 11 月にオンラインで開催した SGRA チャイナ・フォーラム参加登録者 400 名を基に、不定期にフォーラムの案内や報告を配信  
<購読者数：480 人>

【13】 JAANUS（英文による日本建築・美術用語のオンライン辞書）のテクニカルサポート  
<http://www.aisf.or.jp/~jaanus/>

コロンビア大学人文科学大学院美術史学科内のバーク日本美術研究センターに寄贈。  
（The Mary Griggs Burke Center for Japanese Art）現在同センターの事業のひとつとして、大学院生が主に英語の校正を行っており、改訂終了後にコロンビア大学のサーバーから公開予定。

## ■公益目的事業の基盤整備

【14】 ホームページの管理運営

渥美財団：<http://www.aisf.or.jp>  
関口グローバル研究会：<http://www.aisf.or.jp/sgra/>  
アジア未来会議：<http://www.aisf.or.jp/AFC/>

【15】 寄附金・助成金

- ① 奨学事業指定寄附  
寄附総額：3,000,000 円（個人 2 名）
- ② 国際交流事業（SGRA・アジア未来会議）指定寄附  
寄附総額：3,590,000 円（法人 11 社、個人 105 名）
- ③ 公益目的事業指定寄附（12 月に企業に依頼状を送付）  
寄附総額：13,300,000 円（法人 14 社、個人 2 名）

【16】 年報の発行

2019 年度年報を発行 2020 年 6 月 1 日（1300 部）  
6 月下旬に渥美財団関係者、SGRA 会員等に送付。

【17】 公益財団法人、在日留学生支援団体との情報交換と交流

- ① 留学生奨学団体連絡協議会（JISSA）－幹事
- ② 留学生教育学会（JAISE）
- ③ 公益財団法人助成財団センター（JFC）－評議員
- ④ 公益財団法人公益法人協会（公法協）

■その他

【18】理事会と評議員会

第 32 回理事会 2020 年 5 月 16 日（定時：会場とオンライン）

1. 2019 年度事業報告と決算報告
2. 渥美奨学生選考委員の選任
3. 新型コロナウイルス特別奨学金の支給

第 12 回評議員会 2020 年 6 月 3 日（定時：決議の省略による）

1. 2019 年度事業報告、決算報告、監査報告
2. 定款第 15 条第 3 項（評議員の選任及び解任）及び第 43 条（残余財産の帰属）改定
3. 理事と監事の選任（藤井監事、上野理事）

第 33 回理事会 2020 年 12 月 19 日（定時：会場とオンライン）

1. 2021 年度渥美奨学生の決定
2. 定款第 37 条「選考委員会」の改定
  - ① 選考委員の定数を 10 名以上 20 名以内に変更
  - ② 「役員及び評議員」を「理事」に変更
3. 渥美奨学生選考委員会規程の改定
4. 個人情報取扱規程の制定
5. 新型コロナウイルス特別奨学金支給（第 2 回）

第 13 回評議員会 2021 年 1 月 31 日（臨時：決議の省略による）

- ・定款第 37 条「選考委員会」の改定決議

第 34 回理事会 2021 年 3 月 6 日（定時：会場とオンライン）

- ・2021 年度事業計画と収支予算

第 35 回理事会 2021 年 3 月 26 日（臨時：決議の省略による）

- ・公益目的事業の変更認定と定款第 3 条（目的）と第 4 条（事業）の変更の確認
  - ① 「留学生の奨学事業」を「留学生及び日本人学生の奨学事業」に変更
  - ② 「留学生を通じた国際交流事業」を「留学生及び日本人学生を通じた国際交流事業」に変更

【19】「設立 25 周年記念感謝の集い」を中止

2020 年 4 月に開催予定だった設立 25 周年記念感謝の集いを 2021 年 4 月に延期したが、新型コロナウイルスのまん延が一向に治まらないので中止を決定。

【付】公益社団法人及び公益財団法人認定等に関する法律第 27 条第 1 項及び第 59 項第 1 項の規定に基づく立ち入り検査

1. 日時 2020 年 10 月 22 日（木）午前 10 時～午後 5 時
2. 検査官

内閣府大臣官房公益法人行政担当室参事官補佐

末村真一郎氏

内閣府大臣官房公益法人行政担当室

羽田誠氏

3. 財団側立会者

今西常務理事、角田事務局長、船橋経理部長が対応。

4. 講評と指摘事項

比較的整備されているとの講評があり書面で修正を指摘されるものはなかったが、下記の諸点の改善を求められた。

- ① 定款第 37 条 3 項選考委員の項（人数）の変更
- ② 理事会の「決議の省略」には、監事の「異議確認書」の整備
- ③ 個人情報保護規程の作成（募集要項の記載事項の拠り所になるもの）